

佳作

ぼくの宝物

愛知県 岡崎市立本宿小学校四年 山本 優斗

今年の五月三十日、ぼくにとって特べつな日になりました。その日、ぼくのたった一人の弟が生まれてきてくれました。

ぼくは、それまで兄弟がいまませんでした。友達が兄弟で遊んでいるのを見ると、「ぼくにもお兄ちゃんか弟がいたら、楽しいだろうな」と思っていました。だけど、もし兄弟がいたら、お父さんとお母さんが、ぼくだけをかわいがってくれなくなってしまうかもしれないので、このまま一人のがいい、とも思っていました。

去年の秋、お母さんがとつ然、病院に入院しました。ぼくは、びっくりして泣いてしまいました。お父さんがぼくに、

「お母さんは、今おなかに赤ちゃんがいるんだよ。赤ちゃんを守るために病院に入院したんだよ。」

と教えてくれました。ぼくは、それを聞いて「ぼくに赤ちゃんがきてくれた。家族の宝物になってほしいな。お母さん、がんばって」と思いました。そして、お母さんがいない間、家のお手伝いをもつとがんばろうと思いました。

まず、買い物がんばりました。お父さんがほしと言った物をメモしました。それを学校から帰ってきた後、近くのスーパーに行きました。

次に、せんたくをがんばりました。お父さんがせんたくをほす時、一しよにほしました。ぼくはタオル係で、タオルをたくさんほしました。

お母さんが入院してから二か月後、お母さんが家に帰ってきました。だけど、お母さんは家でもねてないといけませんでした。

だから、ぼくはお母さんのためにお手伝いを続けようと思いました。買い物に行くぼくを見て、お母さんは、

「一人で行けるの。大じょうぶかな。」

とびっくりしていました。そして、

「今までがんばったね。お兄ちゃん、ありがとう。」
と言ってくれました。ぼくは、お母さんに、「お兄ちゃん」と言ってもらえた事がとてもうれしかった

です。

そして、五月三十日に、お母さんが男の子の赤ちゃんを生んでくれました。名前は、「家族みんなを太陽のようにてらしてくれまますように」とぼくが考えました。お父さんとお母さんも、

「太陽、とてもいい名前だね。」
とさんせいしてくれました。

太陽は、ぼくの大切なたった一人の弟です。初めて太陽を見た時、ぼくはこの小さな弟を守っていこうと思いました。そして、家族みんなで太陽を育ていき、ずっと笑顔でくらししていきたいです。